

RIDE THE LIGHTNING METALLICA

発行:VIRGIN MUSIC JAPAN/発売:オクト出版社



Joey 4-29-12

FIGHT FIRE WITH FIRE ファイト・ファイアー・ウィズ・ファイアー	8
RIDE THE LIGHTNING ライド・ザ・ライトニング	-24
FOR WHOM THE BELL TOLLS フォア・フーム・ザ・ベル・トールズ	45
FADE TO BLACK フェイド・トゥ・ブラック	- 55
TRAPPED UNDER ICE	75
ESCAPE エスケイプ	87
CREEPING DEATH	-98
THE CALL OF KTULU ザ・コール・オブ・クトゥルー	- 117

Virgin

演奏アドヴァイス

Fight Fire With Fire

Dでのヴォーカルは、全て拍の裏で歌っているが、これはかなりテンポに乗りにくい。気を使わないとリズムがくずれやすい所なので要注意。

田I、2小節にかけてのギター・ソロは、二つのテクニックが重なったフレーズ。まず号 (3弦9フレット)を薬指で押え、出来る限り細かくピッキング(ピッキング・トリル)。3拍目から半音アップ(H.U)し、2小節2拍目からは I音アップ(U)させ、いずれもピッキング・トリルを行う。譜面上ではこの様に細かく記されているが、実際のプレイではポルタメント・チョーキング(徐々に弦を上げていくチョーキング)をしながらピッキング・トリルを行い、弦を上げていく度合いは各自のフィーリングに従えば良い。

Ride The Lightning

For Whom The Bell Tolls

ミディアム・テンポのナンバー。ここではギターの 運指について説明しよう。

Fade To Black

JII、12小節は、Bmのペンタトニック・スケールを利用した典型的なチョーキング・フレーズ。まず 豪 を薬指でチョーキングし、 そ、 子を続けてピッキングする。この時 を、子共に人差指でジョイント(一緒に押弦)すると良い。次に をかい指で押さえピッキングし、人差指で押弦されたをに向かってプリング。そして再び 書をチョーキングし、 子をピッキングする。後はこのプリング、チョーキング&ピッキングを繰り返す。

25~28小節は、様々なテクニックが組み込まれたスピード感のあるフレーズ。まずは26小節のフレーズに注目して欲しい。前の小節の「音チョーキングからポルタメント・ダウンしつつピッキングを繰り返し行っている。これは先の*Fight Fire With Fire"の解説の中で述べた『ポルタメント・チョーキングしながらピッキング』のいわば逆の奏法にあたり、前回同様弦を下げていく度合いは各自のフィーリングに従えば良い。

Jのラスト 2 小節は *ダブル・ベンド "。これは 2 本の弦を同時にチョーキングするテクニックだが、ここでは せを半音チョーキング、 せを | 音チョーキングしている。特に意識しなくとも半音と | 音に弦は上げ分けられるものなので、気難しく考える必要はない。

Trapped Under Ice

□の3小節のフレーズで *ハーモナイズド・チョー



キング が行われている。これはチョーキングした弦と他の弦を同時にピッキングするテクニックで、ここでは号に小指、チョーキングする号には薬指を用いる。注意すべき点は、号のチョーキングにつられて号も上げてしまわないこと。ここで上げてしまうとダブル・ベンドになってしまうので気を付けよう。

□の8小節は"ピッキング・ハーモニクス"(Ph)後、アームをアップ&ダウンさせている。"ピッキング・ハーモニクス"とは、右手の親指の側面をピッキングと同時に弦に触れさせ即座に離すことによってハーモニクス(倍音)を出すテクニック。この場面ではまず፟፟፟፟፟をピッキング・ハーモニクスし、次にアームをアップさせる。その直後、アップさせたアームを今度は徐々にアーム・ダウンさせていく。ここでのアーム・アップは譜面上にも示されているように、瞬時に行うと良い。

G I 小節は譜面で見ると難しそうに感じられるが実際はそれ程でもない。左手の動き自体は開放 (0 フレット) を利用したプリング&ハンマリングのみで、あとはアームをポルタメント・ダウンすれば良いのである。

Escape

Dのリフはポジションもさほど動かず、非常に弾きやすいものではあるが、けっして軽んじてはいけない。この様に8分音符が続く単調なリフを刻んでいると、つい16分音符を必要以上に速く弾いてテンポをくずしてしまいやすい。単調であっても、しっかりと8分音符、16分音符、と弾き分けられることが大切なのであり、またそうすることによってそのリフが生きてくるのである。速弾きや難しいテクニックの目先のカッコ良さだけを追いかけるより、音楽のベーシックな部分を飽くまで追い求めることが何よりも大事なのだ。基本的なことを蓄積すれば、高度な音楽性は徐々についてくるものなので、ここは気を抜かず練習すること。

□の7小節にある音符上の点は"スタッカート"。これはピッキングした後、押弦していた指を瞬時に離すテクニック。こうすることによって音を非常に短く弾くことが出来る。

Jの7、8小節は、開放を利用したフレーズ。この場合、動いている音──つまりここでは拍の頭の音が主旋律になるので、その音を強く弾くこと。そうすることによってメロディーを浮き上がらせることが出来るのだ。

Creeping Death

□ I ~ 4 小節はピッキング・トリルを行いながら徐々に指をスライドさせ、ポジション・アップさせている。特に難しい事はないが、音の粒を揃えるよう気を配ると良い。

Nの I 小節前に"ピック・ポルタメント"が行われている。これはピックを巻き弦にこすりつけてそのノイズを利用するテクニックで、フレーズの中に緊張感をもたらす効果がある。ポイントはピックをすべらせるスピードなので、実際の音を良く聞いておくことが大切だ。

曲のラスト I 小節にあるフレーズは、ハーモニック・マイナー・スケール (和声的短音階)の上行形と下行形。この"ハーモニック・マイナー・スケール"とは、マイナー・スケールの原形であるナチュラル・マイナー・スケール (自然短音階)の第7音を臨時記号によって半音上げ、導音を持ったスケールにしたものである。ここでは、Emスケールの第7音であるD音にシャープ (#)をつけて導音としている。ペンタトニック・スケールだけではなく、こういったマイナー・スケールも覚えてアドリブの中で活用すると良い。

The Call Of Ktulu

L4小節のEGIのフレーズの中で"クォーター・チョーキング" (Q.C)が行われている。訳せば↓音チョーキングということになるのだが、実際は多少音程がうわずった程度にチョーキングすれば良い。譜面上ではその音程を明確にすることが出来ないので、押弦されているフレットの音のみ記されている。

M6、7小節にわたるフレーズは、チョーキングから 1音アップされた状態で右手を用い、ハンマリングやプリングを行うというモノで、その弾き方は次の通り。まずは薬指で子をチョーキングする。その状態のまま今度は右手の中指、もしくは人差指を用いて学をハンマリング&プリング。後の学、号も同様に、右手でハンマリング&プリングする。そして7小節3、4拍目ではじめて1音アップ状態からダウンしよう。

この"The Call Of Ktulu"のような、次々とリフの展開が変わっていく曲を演奏する場合、かなりの量のアンサンブルをこなさなければならない。曲全体を覚えるのは非常に根気のいる作業ではあるが、各自前もってしっかりと頭の中にインプットしておけばアンサンブルも楽になるので曲を良く聴き込むこと。



本書での記譜について

チョーキング(H·C、cho、1HC、2C·····)

ロック・ギター奏法には欠く事のできない技である。これは、弦を引き上げて音程を上げるテクニックだが、指の関節でなく、手首のひねりを使ったものだという事を覚えておこう! また、薬指の場合は中指&人差指、中指の場合は人差指を添え、複数の指で行なう事も頭に入れておく事。なおチョーキングの音程には、半音(H・C)から2音(2C)程度までがポピュラーだが、最近では3音(3C)近くにまで及ぶものもある。(譜例1)

低音チョーキング

5弦、6弦でのチョーキングでは、弦を下方向へ引き下げるスタイルが使われる。(人によっては4弦も引き下げる場合がある。) この場合は、手首のひねりよりも指の関節を使う方が妥当。(**譜例 2**)

クォーター・チョーキング(Q·C)

別名 "ブルース・チョーキング" と呼ばれる感覚的ベンディング。「 $クォーター=\frac{1}{4}$ 」にはこだわらず、ゆっくりと上げたH・Cを途中で止める要領で!(**譜例3**)

ハーモナイズド・チョーキング

チョーキングした弦と他の弦を同時にピッキングし、和音(ハーモニー)を作り出すベンディング。(**譜例 4**)

ダブル・チョーキング(W·C)

ハーモナイズド・チョーキングの一種だが、チョーキングした音ともう一方の音が同音になる場合を、特別にダブル・チョーキングと呼ぶ。(**譜例 5**)

ダブル・ベンド(H-C) Cho (IHC) ·····)

2本以上の弦を同時にチョーキングする技。フレーズ、ポジションによっては2本以上の指を使う事もあるが、できれば1本指でのプレイをマスターしたい。(**譜例 6**)

チョーク・ダウン(口)

チョーキングした音を元に戻す作業。(譜例7)

アップ(U、H・U、1HU、2U·····)

チョーキングしている状態を表わす時にアップが用いられる。従って、(例えば)アップからチョーク・ダウンの場合は、チョーキングする過程の音を入れてはいけない。"cho & D'' と "U & D'' では違うという事だ。なお、1音アップがU、半音は $H \cdot U \cdots \cdots$ で表わされる。(**譜例**8)

ハンマリング(H)

同一弦上において、ピッキングした音が消えないうちに、

そのフレットよりもハイ・ポジションのフレットを指でハンマー (叩く) して音を出すテクニック。(**譜例9**)

プリング(P)

(見た目には)ハンマリングの逆の作業をプリングという。 しかし、単純に弦から指を離すだけではダメ! 指の先で 弦を捕らえ、それを下方向へはずす事によって音を出すの である。(譜例10)

トリル(Tr.)

ハンマリングとプリングを(リズムにほとんど関係なく) 素速く連続させる事をトリルという。記譜方法は、6連符などで表わす場合と、2つの音符で大まかに表わす場合が あるが、どちらも同じと考えて良い。(譜例11)

ライトハンド

ハンマリング、プリング、トリルには右手の指を使う場合もあるが、特別に"ライトハンド"としては記譜しない。また、ライトハンド・テクニックにはチョーキングなどを絡ませる場合も多いが、譜面に示された"U"などを見落とさないように!(譜例12)

スライド(S)

同一弦上において、指を滑らし音をつなげる技。(**譜例13**) グリス(**g**)

本質的にはスライドと同じだが、始まりの音程や終わりの音程をハッキリさせない、比較的距離の長いものをグリスと言う。音を装飾するグリス、そしてスピード感や迫力を出すための低音弦グリスなどがある。(譜例14)

. ミュート(M)

ミュートとは "音を消す"という意味だが、その方法には2種類がある。1つは左手でミュートする方法(コード・カッティング等に使う)、もう1つは右手をブリッジ上に置く方法(いわゆるミュート奏法)。なお、ミュートの加減にも度合いがある事を覚えておこう。(**譜例15**)

ヴィブラート(~~~)

音が伸びている状態でそれを揺らすテクニック。これには、弦と平行に指を揺らすフィンガー・ヴィブラート、チョーキングとダウンを繰り返すハンド・ヴィブラートがあるが、ロックの場合後者が多い。(**譜例16**)

アーム(Arm)

アーム使用の場合は、その音程上下変化を曲線で表わす。 細かいニュアンスはレコードから耳でマスターしよう。(**譜**

例17)

ハーモニクス、ピッキング・ハーモニクス(harm. Ph)

ハーモニクスはharm.で示し、ピッキング・ハーモニクスの場合は特別にPhとする。なお、後者の場合、音程はあえてオクターブ上に記譜しない。(**譜例18**)

指の記号(t、i、m、r、l)

解説での指記号は、親指=t、人差指=i、中指=m、 薬指=r、小指=l、で示す。また、例えば6弦の8フレットを「 8 」、3弦の開放を「 9 」などと省略化して表わす 場合もある。



FIGHT FIRE WITH FIRE

































ライド・ザ・ライトニング Words and Music by J. Hetfield, L. Ulrich C. Burton and D. Mustaine











































FOR WHOM THE BELL TOLLS





















FADE TO BLACK

フェイド・トゥ・ブラック Words and Music by J. Hetfield, L. Ulrich, C. Burton and K. Hammett









































TRAPPED UNDER ICE

トラップト・アンダー・アイス Words and Music by J. Hetfield, L. Ulrich and K. Hammett Free Tempo A В Em Em D Vocal $\neg M \neg$ TAB - 8va bassa -8 Arm 0 Arm E.B. Drums 4times Repeat In Tempo В C Em Em D Em D Em D Em E.B. TAB 1xonly, Drums

© 1984 CREEPING DEATH MUSIC
The rights for Japan assigned to Virgin Music Japan Ltd. c/o Fujipacific Music Inc.
Authorized for sale only in Japan.























ESCAPE

Am G/D G/D Em/B Em/B N.C. Am Vocal M E.G. 1 TAB ΗР M н Р E.G.2 HP 4 5 4 Am/E F G/D G/D Em/B Am Vocal E.G.1 11. E.G.2 11. 11. E.BDrums

© 1984 CREEPING DEATH MUSIC The rights for Japan assigned to Virgin Music Japan Ltd. c/o Fujipacific Music Inc. Authorized for sale only in Japan.





















REEPING DEATH

クリーピング・デス Words and Music by J. Hetfield, L. Ulrich, C. Burton and K. Hammett



© 1984 CREEPING DEATH MUSIC The rights for Japan assigned to Virgin Music Japan Ltd. c/o Fujipacific Music Inc. Authorized for sale only in Japan.





































THE CALL OF KTULU





Drums































メタリカ/ライド・ザ・ライトニング

発 行 人 森下彰夫

Publisher AKI MORISHITA

制 作 松原悦子

Producer ETSUKO MATSUBARA

発 行 ヴァージン・ミュージック・ジャパン株式会社

Published by VIRGIN MUSIC JAPAN LTD.

編集制作 株式会社 オクト出版社

発 売 元 株式会社 オクト出版社

〒 107-0061 東京都港区北青山 3-1-6

Tel. (03)5772-2161 Fax. (03)5772-2162

制 作 協 力 株式会社 ソニー・ミュージックエンタテインメント

全音楽譜出版社

アール・ジー・エス

渋澤 弾 (渋沢企画=装幀)

印刷製本 株式会社 平河工業社

2000年4月20日 第1刷発行 ©

Printed in Japan



Joey 4-29-12





ISBN4-89999-014-6 C1073 ¥2400E



FIGHT FIRE WITH FIRE
RIDE THE LIGHTNING
FOR WHOM THE BELL TOLLS
FADE TO BLACK
TRAPPED UNDER ICE
ESCAPE
CREEPING DEATH
THE CALL OF KTULU





定価[本体2400円+税]★

